



テーマについて話し合う飯村小の（手前左から）玉江土道君、水野百々香さん、（後方左から）佐々木章仁先生、小野浩史教頭＝愛知県豊橋市の中日新聞豊橋総局で



記者と一緒に挑戦

全員に共通するのは「豊橋の魅力」を伝えたいという想いを持ち、豊橋の秘密をつらばめたり、豊橋新聞を作ることになった。

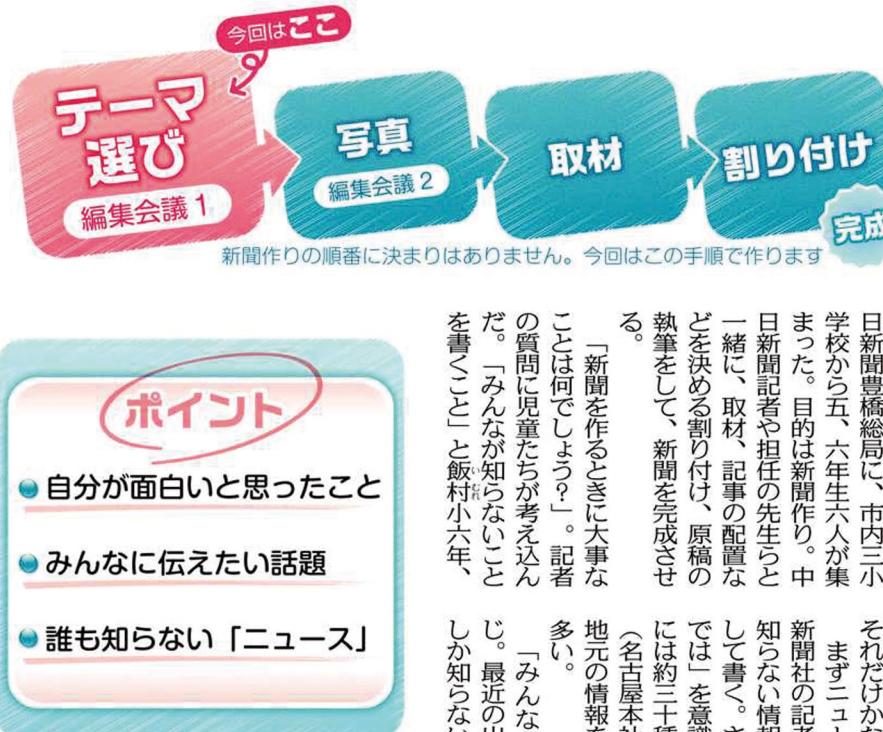
◆電子センサー回路を作
ろう 岐阜県瑞浪市の岐阜
県先端科学技術体験センター
「サイエンスワールド」は11月
5、6日に公開講座「光に反応する
電子センサー回路を作ろう」を同セ
ンターで開く。各日午前10時からと

午後1時30分からの1時間。小学生以上が対象で、小学生は保護者同伴。参加費は1人500円。各部12人まで。10月8日午前9時から電話で受け付け。先着順。申し込み問い合わせは、同センターハローワーク(66)1151へ。

「で付けてるの？」
日曜朝刊の小中学生向け紙面「ジュニア中日」で、小中学生記者がさまざまな職業の人を取材する企画「ハローお仕事」を今夏から担当している。

質

言はそんなんはずはない。でも
言われてみれば私も知らない
ことだ。首藤さんは笑つたり
せずに「一つずつ留め金で固
定しているよ」。細やかな手
作業で制作している様を具体
的に知ることができた。



玉江士道君。正解！でも、それだけかな？
まず二コースである」と。
新聞社の記者も同じで、誰も知らない情報をいち早く入手して書く。ついに「地元ならでは」を意識する。中日新聞には約三千種類の「地方版」（名古屋本社発行）があり、地元の情報を期待する読者が多い。

自分がうなずいた。
「いいよ編集会議がスター
ト。一番大事なのはテーマ
だ。何を書きたいのか、誰に
どんなことを伝えたいのか。
児童たちは学校ごとに分かれ
て、話し合つた。
前芝小五年、上岡彩夏さん
と西土真央さんは身近な話題
ということで、自分たちの学
校や周辺を取り上げることに
した。「前芝には日本に誇れ
るもののがいろいろあるよ」と
西郷輝久先生がアドバイス。
「校庭には、日本で最初に作
られた二宮金次郎（の像）が
ある」「つくだ煮工場もある
よ」
飯村小の二人は、自分たち
が好きなことを挙げてみた。
六年水野百々香さんは動物。
「家の近くにあるのんほいパー
ク（豊橋総合動植物公園）

NIE全国大会名古屋大会は、2017年8月に名古屋市で開かれます

誰もが学びやすく ③

岐阜県白川町白川小学校

岐阜県白川町の白川小学校の5年生の国語。協同学習で、9人の児童は3人ずつに分かれ、話し合っていた。

この日の課題は、三つの単語「生物」「草原」「昨日」について「漢語か和語か」の分類で迷う仮想の人物が、困っている理由を説明しようというもの。子どもたちは、辞書を引き、三つの言葉には、音、訓、それぞれの読み方があり、和語でもあり、漢語でもあることに気付いた。

話し合いの輪の中心にあつたのはホワイトボード。子どもたちは、書いては消しを繰り返し、「音」「訓」などのキーワードを基に、考えをま

とめていった。指導した嶋崎博一教諭(46)によると、言葉だけのやりとりでは情報が頭に残りにくい児童でも、目で見える形にして議論すれば、残りやすい。情報のみ込みが早い子は、自分でキーワードを見つけ、ボードに書き出す。これも国語学習の大切な要素。本人の理解が深まり、言語だけで理解しにくい子も助かる。皆が楽しく、学べる。

このほかにも、白川小では、授業の流れや課題を明確

「きちんと～しよう」というあいまいな指示もしない。発達障害やその傾向のある子は、協同学習に参加しにくいとも言われているが、同小では、昨年度の全校調査で協同学習について、96%の児童が「分かりやすい」、97%が「楽しい」と答えた。「児童が自分で考えられる



国語の時間に協同学習する5年生=岐阜県白川町の白川小で

「伝えたい」気持ち大切

自分ならではの新聞を作つて」という記者の言葉に、六

(56) は話で

協同学習を中心に「皆が理しやすい、楽しい授業」を目指しつつ、白川町の小中学では、一人一人の児童、生の「困った」を解消できるう、個別の対応も、きめ細くしている。次回は、その子を伝える。(佐橋大)